

20250829 子育て支援定住促進住宅建設事業及び候補地選定理由等説明会 要約版

趣旨と背景:

南部町で実施された「子育て支援・定住促進住宅建設事業」に関する説明会(第3回)は、町内の人口減少と少子化の問題に対応するため、この事業を進める意図や計画概要を町民に伝え、意見や懸念を集める目的で行われた。

主な説明内容:

1. **人口減少の概要と背景**:

- 南部町では過去40年間で人口が急減し、さらに2040年までに約4,000人まで減少すると予測されている。
- 少子化や若い世代の転出が主な要因であり、近隣市町村の利便性や賃貸住宅選択肢の不足が課題となっている。

2. **集合住宅の建設計画**:

- 子育て支援を目的にしたメゾネット型賃貸集合住宅(広さ約75㎡、20戸)を建設する計画。
- 建設予定地は旧富河中学校のグラウンドで、生活インフラや利便施設が整った条件を満たしている。
- 廃校跡地を活用した過去の事例(万沢中学校跡地)で定住人口増加に成功したことを参考している。

3. **ランプエリア構想**:

- 「一時的な住環境」を提供する集合住宅を拠点に、地域内への定住を促進する段階的な支援策として構想。
- 防災拠点としての活用や三世代交流の場の整備も計画に含めている。

4. **住民アンケート結果の反映**:

- 若い世代や子育て世代から、住みやすい環境整備や賃貸住宅の提供を求める声が多いことから事業を計画。
- 2040年を見据えた南部町総合計画とも整合性を図り、定住促進を目指している。

住民からの意見・懸念:

1. **事業の進行・計画精度に対する懸念**:

- 他候補地の比較検討が不十分である点や、対象世代からの具体的なニーズ調査が不足しているとの指摘。
- 事業規模や賃貸戸数(20戸)が需要に対し過剰ではないかとの疑問。

2. **防災拠点としての課題**:

- 避難所としての基準(居住空間やトイレの整備)が満たされていない点が問題視された。
- グラウンドを潰すことで防災機能が損なわれる懸念が強く、計画全体への再検討を求め

る声があった。

3. ****税金の使用についての反発****:

- グラウンドの活用や町民の意向を十分に反映せず、多額の税金を投入することへの疑問。
- 防災や既存の空き家活用を優先すべきとの主張。

4. ****少子化対策としての妥当性****:

- 住宅の広さや住環境整備が少子化の解決策となるか疑問視され、経済的負担を軽減する支援の方が効果的との意見。

5. ****長期的な町の未来への懸念****:

- 若者世代への具体的な魅力づくりや、町のアイデンティティの向上を重視すべきとの意見。
- 将来的に町が持続可能な地域として存続し、消滅自治体化を防ぐ方策を模索すべきとの提案。

今後の対応:

- パブリックコメントは9月12日まで延長され、町民意見を十分集約したうえで進めていくと説明。
- 町としては「人口減少の緩和」という目標を掲げつつ、多岐にわたる住民意見を反映した計画修正を検討。
- 再度の説明や周知を行うことで住民の理解を図る方針。

結論:

説明会では賛否両論が巻き起こり、特に計画の透明性や緻密性、防災拠点としての整備を含めた計画変更への強い要望が確認された。町は住民参加型の議論を継続する中で、次世代への持続可能な環境構築を目指す姿勢が求められている。